いろは囃子（1955）

メディア 映画
ジャンル 時代劇
製作国 日本
色彩 B&W
時間 80分
初公開日 1955/11/01

【解説】
　劇作家で小説家の額田六福による戯曲『冬木心中』の五回目の映画化。衣笠貞之助と犬塚稔が脚本を書き、加戸敏がメガホンをとった。
　材木問屋大和屋の一人息子の平太郎は家出して、身を持ち崩しケンカや博打に明け暮れていた。賭場でのトラブルをきっかけに矢場女のお仙と知り合うが、惨めな人生に嫌気が差し、二人で川に身を投げ心中を図る。だが二人とも死にきれず、平太郎は家に戻り家業に励むようになった。いとこのお菊との祝言も決まり、かたぎになって一緒に暮らそうと心に決めた平太郎だったが、以前からお菊を狙っていた山田屋の清三郎に彼女を誘拐されてしまう。その様子を見ていたお仙は夫とともにお菊を救うのだったが…。

【クレジット】
監督 加戸敏
製作 酒井箴
企画 浅井昭三郎
原作 額田六福
脚本 衣笠貞之助
　　犬塚稔
撮影 竹村康和
美術 太田誠一
音楽 西梧郎
出演 市川雷蔵
　　山根寿子
　　峰幸子
　　菅井一郎
　　沢村貞子
　　三井弘次

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.